

## 「聴く」ということ

分散登校中の川口主幹教諭の話の内容として、一致するものはどれでしょうか。

- ① 感染症防止のために、どんなに暑くても登下校中はマスクを必ず着用する。
- ② 感染症防止よりも熱中症防止を優先し、登下校中はマスクをしなくてもよい。
- ③ 感染症防止と熱中症防止の両方を心がけ、登下校中は状況に応じてマスクを外してもよい。

こうやって選択肢があれば、多くの人が「③です」と答えるでしょうね。しかし、実際の皆さんの姿を見ると、②を答えとして選択した人がかなりいたようです。昨日、「マスクはどうしたの？」という私の問いかけに、数人で楽しそうに話しながら登校していた一人が「もうしなくてもいいんじゃないですか」と答えて通り過ぎていきました。川口主幹教諭の話はそういう内容だったかな。

話を「聴く」ということは難しいことですね。耳から情報を入れたら、それで理解できたということになるわけではありません。それはどちらかというと、自然に音が耳に入ってくる「聞く」の方かもしれません。「聴く」は「耳」「十四」「心」と書きます。十四の心を持って耳を使うことが「聴く」ことです。（これについては諸説あります。「目」は「目」が横になっただものとも言われています。）いずれにしても、耳だけではなく、心や目を通して情報を受け入れることを「聴く」というようです。

選択肢③の中の「状況に応じて」の部分で自分たちで主体的に判断するべきですね。全てに指示を待つのではなく、言葉を発した人の意図や思いを考え、それを実践する。それができて初めて「聴く」なのかもしれません。この力も大人には必要なものですよ。

（六月九日 記）

